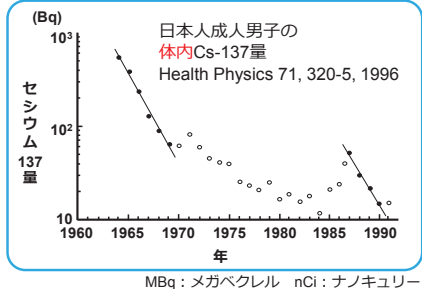
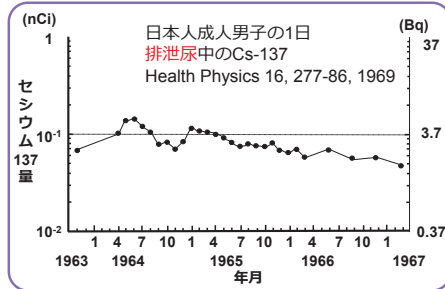
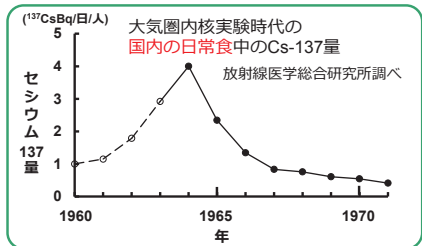
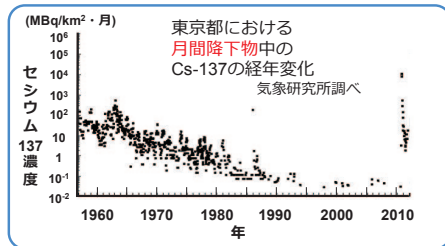


身の回りの放射線 大気圏核実験による放射性降下物の影響

体内放射能：体重60kg 加¹⁴C 4,000 Bq (ベクレル) 炭素14：2,500 Bq 比¹³⁷Cs 520 Bq



MBq：メガベクレル nCi：ナノキュリー

大気圏核実験が行われていた時代には大量の人工放射性核種が環境中に放出されました。これらの人工放射性核種は気流に運ばれて全世界を取り巻き、大気圏から地球表面に向けて徐々に降下してきました。このような放射性降下物をフォールアウトと呼びます。フォールアウト量は大気圏核実験が禁止される直前の1963年が最も高く、それ以降減少傾向を示しました。

食品へのセシウム移行や消費などの時間的ずれがあるため、日常食中の放射性セシウム量のピークは1964年で、その後1967年までに急速に低下し、それ以降は比較的緩慢に減少しました。

日常食のセシウム量と連動して、尿中や体内のセシウム137の量も1964年がピークでした。なお、チェルノブイリ原発事故による影響の結果、日本人の体内からもセシウムの増加が確認されています。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

：2015年3月31日